

# 1年ぶり窓越しの母

## 「命をめぐって」

仁風園 ①

窓越しに直接見る1年ぶりの母は、少し頬があふく

らした印象だった。

「久しぶり。元気なよう

だね」

長男の義明さん(79)の呼

びかけに、佐々木すみ子さ

ん(95)は居室の椅子に座っ

たまま笑顔で手を振った。

義明さんの横で、妻の陽子さん(71)が窓にスマホを近づけて孫やひ孫の写真を見せる。「あらー、めんこいこと」。会いたいねえと小さくつぶやいて、すみ子さんは目尻の涙を指でぬぐった。

新型コロナウイルスの感染が広がった昨年5月頃を境に、石巻市の特別養護老人ホーム「仁風園」では対

面での家族面会をとりやめている。代わりに始まったのが、タブレット端末でつ

なぐ「オンライン面会」と

呼ばれるようになった。

仁風園には現在、92人の高齢者が長期入所している。程度の差はあるが、ほとんどの人に認知症か、類似の症状がある。

面会制限の影響で、妻や息子思い出すのに時間がかかる入所者がちらほらと出てきた。自分の顔を忘れてしまったのなら、足が遠のく家族もいる。

オンラインや窓越しで家族に会った後の本人はたいがい表情が明るくなり、活

気が出る。人生を締めくく

る最後のときに、大事な家

族のことを記憶にとどめら

れるかどうか。面会の重み

が、外部の参加者を一切呼

ばないため、職員だけのア

イデアで全員に賛状を手渡

すことになった。

タブレット端末を使ったオンライン面会（11月15日）



ガラス1枚隔てて会話を「窓越し面会」だった。夫婦はすでに6回、オンライン面会をしている。声や表情はしっかりと届くが、タブレットを介したやりとりが理解できないせいから、すみ子さんはたまに目をきよるきよるささ。話し相手を探さずじま。

その点、初めて試してみ

た窓越しの面会は身ぶり手

ぶりの反応もよくなった。「本

当は手を握って安心させて

あげたいが、こうして生身

で向かい合って会話できる

だけでもありがたいんだ」と

と義明さんは言った。

＊

仁風園には現在、92人の

高齢者が長期入所してい

る。程度の差はあるが、ほ

とんどの人に認知症か、類

似の症状がある。

面会制限の影響で、妻や

息子思い出すのに時間が

かかる入所者がちらほらと

出てきた。自分の顔を忘れ

にあらためて気づかされて

います。施設長の中村泰仁

さん(50)は語る。

足を止めたことで見えて

きたものはほかにもある。

昨年9月の敬老会のこと

と。例年は家族や来賓を大

勢招いて式典を開いていた

が、外部の参加者を一切呼

ばないため、職員だけのア

イデアで全員に賛状を手渡

すことになった。

「貴方は本日まで健やか

に過ごされました。ここ

に長寿を祝って感謝の意を表

します。」

中村さんは、以下同文「

を封印し、90人余の一人ひ

とをの前で名前を呼んで全

文を読み上げた。うなずき

ながら聞く人。途中で号泣

する人。最後はノドが痛く

なり、かすれ声になった。

「コロナの前は、こんなふ

うにみてるの顔を見て長寿

を喜び合っていたんだろう

か。職員と入所者が和気あ

いあいと楽しむ姿を眺めな

がら、中村さんは思った。

◇

他人と距離を取り、でき

れば会わずに済ませよう

命がかかる時代、どうし

てもオンラインに置き換え

られない生身の関係性が見

えてくる。特撮チームから

報告する。

(文・写真 高倉正樹)

風子夫婦と窓越しに話す佐々木すみ子さん。孫は元氣

か、毎日返し続けた(6月22日、石巻市の「仁風園」)